



Press Information

VPR18-001

2018年1月11日(木)

フォルクスワーゲン グループ ジャパン 株式会社

フォルクスワーゲン 2017年度登録実績、3年ぶりに前年超え

新型モデルが貢献

フォルクスワーゲン グループ ジャパン 株式会社(代表取締役社長:ティル シェア、本社:愛知県豊橋市、略称:VGJ)は、フォルクスワーゲンの2017年暦年の新車登録台数(1-12月:乗用車のみ)が、前年比4%増の49,036台(数値はJAIA(日本自動車輸入組合)調べによる)となり、2014年以来3年ぶりに前年を上回ると発表しました。

【2017年:良好な販売実績の要因】

- 2017年に導入された新型モデル新型 Tiguan、新型 up!、新型 Golf、新型 Arteon の効果
- 安全性と先進技術に関するお客様の要望に応える車両提供
- VWのブランド訴求を強化したマーケティング活動(up!とArteonの告知活動、Try! Try! Try!等)

2017年1月、VGJは、中期的な経営の方向性である「Road to 2020」を掲げ、商品の積極的な投入のみならず、顧客満足の向上を目指し、様々な取り組みを行ってまいりました。

1月にはフルモデルチェンジとなる新型 Tiguan を発売。続いて4月に「小さいけど、しっかりフォルクスワーゲン」をキャッチフレーズとする新型 up!を、5月には新型 Golf を投入。更には、10月に、フォルクスワーゲンの新たなフラッグシップとなる Arteon を発表いたしました。これらの新型モデルの導入が奏功し、年間の販売実績に貢献しました。

また、新車以外のモデルにおいても、Golf Touran や Poloなどは引き続き高い商品力を維持しており、前年を上回る販売実績へと繋がりました。

さらにマーケティングにおいては、各商品の特性を訴求するだけでなく、フォルクスワーゲンのブランド体験を重視した活動を展開することにより、ブランドへの関心を高め、販売に寄与しています。

2018年には、Passat TDIシリーズを皮切りに、新型 Polo などの新商品を積極的に投入し、前年の販売実績を上回ることを目指します。

VGJ は、今後も、「People's Car」ブランドとして、お客様のライフスタイルに寄り添い、先進の技術や機能をより多くのお客様にお届けしてまいります。